

九州大学がタイと共に ASEAN の 海洋プラスチック問題に挑む！

～共に「知」を創造する科学技術協力～2019年度の採択結果の発表

国際協力機構(JICA)は、2019年度の「地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)」(注)の採択案件として、九州大学(福岡県春日市)が提案する「東南アジア海域における海洋プラスチック汚染研究の拠点形成」(タイ国)プロジェクトを採択しました。

海洋プラスチック汚染は、早急な対策が求められる深刻な環境問題として世界的な注目を集めています。2050年には、海上を浮遊するプラスチックが海洋中の魚の存在量を上回るとも予測されており、G7等の国際的枠組みでも議論されています。中でも東南アジアから投棄される廃プラスチックは、世界の全投棄量の約30%を占めており、ASEAN地域における廃プラスチックの削減計画や、それを下支えする調査・研究体制の整備が求められています。

本研究では、海洋プラスチック研究で世界をリードする我が国と、経済成長に伴う深刻な都市ごみ問題を抱えるタイの研究者がタッグを組み、海洋プラスチック汚染に関する研究拠点をタイに構築し、ASEAN諸国のモデルとなる海洋プラスチックごみ軽減のための行動計画をタイ政府に提案することを目指します。具体的には、まずタイの一地域において、プラスチックごみの発生量の解析や現存量の調査、環境影響評価、そして将来予測を集中的に行い、この結果を踏まえた行動計画を策定します。さらに地域の政策決定者や多様なステークホルダーと共に、プラスチックごみ発生量の削減を実現させ、最終的にタイ全域を対象とした行動計画をタイ政府に提言することを目指します。

実際に研究にあたる先生方をご紹介することも可能です。どうぞ取材をご検討下さい。





陸に打ち上げられた海洋プラスチックゴミ

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 国際科学技術技術室 (担当:岸本茜)

TEL 03-5226-8114

e-mail : Kishimoto. Akane @jica. go. jp

研究課題名	東南アジア海域における海洋プラスチック汚染研究の拠点形成		貢献する 主なSDGs	 
研究代表者 (所属機関・役職)	磯辺 篤彦 (九州大学 応用力学研究所 大気海洋環境研究センター 教授)		研究期間	5年間
相手国	タイ王国	主要相手国研究機関	チュラロンコン大学	
研究課題の概要				
<p>本研究は、海洋プラスチック汚染に関する調査・研究拠点をタイに構築し、海洋プラスチックごみ軽減のための行動計画をタイ政府に提案することを目的とする。まずサッタヒープ郡において、プラスチックごみの発生量解析や現存量調査、環境影響評価、そして将来予測を集中的に行う。この結果を踏まえた行動計画を策定し、地域のポリシーメーカーや多様なステークホルダーと共に、プラスチックごみ発生量の削減を実現させる。続いて、特定地域の成果をエビデンスとして、対象をタイ全域に拡張した行動計画をタイ政府に提言する。本研究で形成されたプラスチックごみの調査・研究拠点は、本研究期間終了後も、持続的なごみ削減のために行動計画の強化・更新を行う上で、科学的根拠を与える司令塔となることが期待される。また、社会実装としてASEAN域内にロールモデルを波及させ、域内での海洋プラスチックごみの削減を目指す。</p>				

九州大学 大気海洋環境研究センターによる海洋プラスチック汚染(漂流・漂着ゴミ)研究

<https://odg-riam.jimdo.com/海洋プラスチック汚染-漂流-漂着ゴミ/>

(注)地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)とは、環境・エネルギー、生物資源、防災および感染症等の地球規模課題の解決を視野に、これら諸課題の解決に繋がる新たな知見の獲得及びその成果の将来的な社会実装(具体的な研究成果の社会還元)を目指し、開発途上国の社会的ニーズをもとに我が国の研究機関と開発途上国の研究機関とが協力して技術協力プロジェクトの枠組みにより国際共同研究を推進するプログラムです。

(<https://www.jica.go.jp/activities/schemes/science/index.html>)